

If you want to go fast,go alone. If you want to go far,go together.

令和8年5月18日

「富士宮合同体育祭を行う」意義は！？

今、富士宮東、富士宮北、富岳館の体育科を中心に、各校教頭、生徒会担当、関係課長、富士宮分校教職員など、富士宮合同体育祭に向けて本当に心を削って努力していただいている。心から感謝したい。

そして、生徒、教職員、さらに、保護者の皆様にも紹介しておきたい内容がある。**公立高校の使命**である。

令和7年2月「高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ」が出され、議論された一部に、このような内容がある。「現状では、学校の立地、リソース等に伴う制約により、学校が生徒の多様な学習ニーズに対応しきれていない、若しくは潜在的なニーズを引き出せていないといった課題がある。(略) こうした課題を解消するために、一つの学校の中だけで教育活動や期待される機能・役割の全てを果たそうとするのではなく、他校・他課程・他学科のリソースも活用していくという考え方が重要であり、このための方策としては、教科・科目充実型の遠隔教育や通信教育の活用、**学校間連携等の促進**、家庭や地域、企業等の関係機関との連携・協働等が有効であると考えられることから、必要な体制・環境を整備しつつ、これらを一層進めていくことが重要である。」

公立高校は、今、大きな変革期に入っている。生産年齢人口減による急速な少子化で「高等学校の再編（広域自治体の責任で学校数を減らす）」、私立無償化による教育に対する「税金の投入」方法の変化、団塊の世代以降の退職期にあたる教員の世代交代、教員不足、技術革新による教育の在り方の変化・・・。

公立高校の良さは、**教職員の質の保証**である。私立高校は、全国平均では、正規教職員と非正規教職員の割合が7:3（都市部では5:5）と言われている。非正規教職員の多さは、**帰属意識の低下、情報の分断と更新不足等の課題**が示されている。これまでの学費面での格差は縮小しても、**9割以上を正規教職員で占める公立高校は、教職員の良さを享受する可能性はまだ高い**。さらに、**公立高校は、生徒へのアプローチ方法が標準化され、正規教職員の献身性も一定数保証される**。

このような中でこそ、公立高校の横の連携（高連携）は成立する。異動がその最たるものであるが、**地域の高校同士がある程度理解**し、互いの良さを持ち寄ることは、公立高校にしかできない。つまり、これからの公立高校のリーダー群（管理職にとどまらないと私は思う）は、「他校と手をくむ部分」と「自校として譲れない部分」の境界線をどう緩め、どう守るかを理解するセンス（態度と言葉）が求められると私は思っている。**地域（富士宮）の未来のために、地域全体を巻き込んで人材育成することができるのは、公立高校であると思うのである**。

If you want to go fast,go alone. If you want to go far,go together.

体育祭を大切にする生徒の気持ち

※文字が多いことお許しください

少し古いデータであるが、『高校生の社会参加に関する意識調査報告書ー日本・米国・中国・韓国の比較ー』（令和3年6月国立青少年教育振興機構）に、学校の活動への参加調査結果がある。日本は、「学校行事」について、「積極的に参加している」と回答した割合が、約55.0%と、中・韓・米国より大幅に高く、「まあ積極的に参加している」を合わせると、日本の高校生の割合は9割を超えている。日本は、学校への帰属意識を醸成するために、学校行事（体育祭等）が意義あるものとなっている。一方で、「日本の高校生は自治活動には消極的だが、行事には積極的」という結果が出ており、「**決まった枠組みの中で一体感を楽しむ**」という**日本独特の高校生文化**が浮き彫りにされるとも分析する。これはわたしたち大人にも一因がある。

おそらく、富士宮の高校生たちも、自分の学校の仲の良い集団内で、一体感を楽しみたいと思うことだろう。そして、それは、高校時代の思い出として大切にしてほしいパーツだし、積極的に参加したい気持ちも維持してほしいと願う。今回の合同体育祭は、単独で行っている学校の体育祭に、「富士宮」という地域への意識と、いつも一緒にいないけれど、すぐ近くにいる同世代の仲間存在をも取り込んで、社会参画に近い学校行事という枠組みになっている。高校は、俗にいう社会への最後の出口にあたる。私は、この合同体育祭を、「社会の姿に近い形で」楽しんで、積極的に参加できる高校生が多くなると、視座が一つ高まり、**社会全体を変えていこう**とする高校生も現れて来るのではないかと、一生懸命準備している生徒、教職員の姿を見ながら思うのである。

富士宮の「宮踊り」と高校

富士宮の「宮おどり」は、1992年(平成4年)に富士宮市制施行50周年を記念して創作された、新しい市民参加型の踊りのようだ。ラッキイ池田氏の振付という。富士宮市立中央図書館で発行している「ブックちゃんのふじのみや探検 第19号富士宮の祭りのひみつ」では、市内の小中学生をはじめ、各種団体が8月に踊ってきたと書かれていた。富士宮は「富士山まつり」として、芝川日和、富士山お山開き、富士山御神火まつり、宮おどり大会、富士の巻狩りまつり、陣馬の滝まつりなど、年間行われる行事や祭りを総称し、富士宮市らしく、「古(いにしえ)から今につなぐ絆がとても根付いている」ことを感じさせる。

富士宮市の高校は、創立されて100年近い富岳館(農業、産業)、富士宮東(女子教育)、富士宮北(商業)があり、富士・富士宮地区では、長年地域の産業人材を輩出した伝統と学校文化が根付く。そこに、富士宮西は人口急増期に地域の人材育成のため創立されており、この4校は、富士宮にとって、なくてはならない地域の人材を生み出す宝庫であったに違いない。富士宮に思いを馳せたい。生徒会が、「宮踊り」で「舞え!青春!と言ってくれたこと、本当に嬉しく思う。

富士宮市公立高校合同体育祭

集え4校
舞え!1600の青春!
「宮踊り」

6/5(金) ※雨天時 6/9(土)

場所 富士宮北高校グラウンド
生徒会企画「宮踊り」
をクラス単位で行います。

Fujinomiya Schools

ハレの日を楽しむコツと、「この人となら何かを楽しめる」

神奈川県为学校法人桐蔭学園は、5月8日高校体育祭(鳳舞祭)を開催したようだ。この高校は、マンモス私立高校で、元々は男子校だった。2018年に男女共学になり、コロナ禍を経て、2023年にすべての生徒で体育祭をやることになり4回目を今年迎えたようだ。この高校は、全校生徒2000人を超える、超巨大高校であり、教職員もカウントすれば相当な参加者数で学校行事を運営している(<http://toin.ac.jp/>)。

この学校行事に対して、校長と生徒が共有していることがある。この高校には、「祭」と名のつくイベントが2つあるようだ(体育祭と文化祭)。祭とは、「ハレ」すなわち非日常のことを指している。「ハレの日」というのは、ともしれば単調となる日常生活にアクセントをつける日として、日本では伝統的に大切にされてきている。

そして、この「ハレの日」を楽しむコツは、とにかく主体的に関わること。主語を自分として語ることに尽きるという。そのことをこの学校では大切にしている。生徒たちは、「共同して何かを行う非日常」を楽しむことを共有しているようだ。まさに、主体的に関わることを学ぶためにである。

富士宮での合同体育祭は、今年初めて実施する。何か、「こと」を起こす時、また、これまでと異なる「こと」をやると、常に、ネガティブな要素は付き纏う。それに戸惑ったり、不安にさせられる。そういう時は、「この人となら、主体的に関われる」そういう仲間を一人でも多く探して関わりと良い。ハレの日を「晴れ」としてしっかり楽しめる仲間は必ずいる。そして、その主体的な関わりは、1通りではない。この富士宮では、約1500人以上の主体的な関わりがあるはずである。

私たちの富士宮にある私立高校も1500人規模の体育祭を実施している。富士宮の公立高校の高校生にこれができないわけがない。

みんなで、「とにかく主体的に関わること」を目指していきたいと強く願う。↑ハレの日を待つ晴れた日の中央道!

